公益財団法人国際文化フォーラム
2024 年度　事業計画書

公益財団法人国際文化フォーラム（TJF）は、2011 年に公益財団法人に移行して以来、国内外の「児童及び青少年を対象とした外国語教育及び多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業を行い、もって児童及び青少年の相互理解と人間形成を図り、新たな国際社会の発展に寄与する」（定款第2章第3条）ことを目的として事業を推進してきました。

その後、社会の多様化が急速に進むなかで、言語や文化に注目しているだけでは現実に対応しきれないのではないかという認識のもと、2023年には、「複雑で多様な背景を持ったすべての人がより自由に、より対等に生きられる世界を創り、未来につないでいく」ことを新たなビジョンに掲げました。さらに、ビジョンの実現に向け、「対話から共通了解へ」、「協働から共創へ」、「対等な関係性の構築」の三つをミッションに定めています。新しいビジョン・ミッションのもと、若い世代が希望をもって生きていけるような社会の実現に向けて事業をより一層推進していきます。

2024 年度事業一覧

公１　我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化 についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業
ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業
1. 学校のソトでうでだめし
（1）「その辺のもので生きる」講座
（2）　聞き書きプロジェクト
2. 地球講座2024 「The LIVE」 「The CORE」
3. アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動
イ．ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業
1. ときめき取材記ウェブサイトの運営
2. イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動
ウ．多様な言語や文化の背景をもつ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業
1. 多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿（PCAMP）」
（1）ひろしまPCAMP2024
（2）とやまPCAMP2024
2. ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動
エ. 広報事業
1. 財団事業等の発信
2. デジタル媒体を使った広報のサポート
3. エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動
オ. 助成事業
1. 公募助成金プログラム

公１　我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業

公益目的事業会計　予算額 114,059,770 円（内、共通費用 85,320,469 円）

ア．国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

【予算額 11,711,440 円】

1. 学校のソトでうでだめし

「学校のソトでうでだめし」事業は、小中高校生が、学校で学んだことも活かしながら、社会や地域とつながるためのさまざまな学びを体験する場を作ることを目的に 2017 年にスタートした（一部、教育関係者向けのプログラムも実施）。

大都市圏では、探究学習への関心の高まりもあって、TJF に限らず行政・民間・個人などさまざまな機関・組織・団体が学校の内外で多様な教育プログラムを数多く展開している。一方、地方では行政主導のプログラムが多く、大都市圏とは種類の多様さ、数の多さともに大きな開きがある。本事業では、子どもたちの学びの機会の不均衡を減らすことは公益性が高いとの考えに基づき、大都市圏以外の地方における多様な学びの機会創出に焦点をあてる。

2024 年度は、「その辺のもので生きる」講座と聞き書きプロジェクトの二つを実施する。おもに地方在住の小中高校生が学校外のさまざまな学びに触れる機会を作ることを目的に、小中高校生（場合によっては未就学児、大学生を含む）および教育関係者向けに複数の対面プログラムを実施する。具体的には、行政とのネットワークが形成されつつある鹿児島県日置市を中心に、学校と連携した出前講座や地域の施設を利用したワークショップ等を行う。

(1)「その辺のもので生きる」講座	予算	4,669,300 円

事業の目的	子どもたちが生きていくこれからの社会は、AI の発達や国際情勢の変化、気候変動による災害の多発、少子高齢化などにより、社会システムが変動することが予測されている。変化の激しい時代を生きる子どもたちが、「多様な生き方や価値観が尊重され、人びとの対等性が重視される社会」の担い手として、希望をもって生きていくための強い支えとなるような経験と学びの場を作る。 より具体的には、子どもたちがこれから直面するかもしれない社会の格差や環境、資源などの問題とそれによって引き起こされる分断や争いについて、人びとの暮らしや思想信条を「教え」で変えることで解決しようとするのではなく、問題の構造を捉え、仕組みに働きかけることで根本的な解決策を見出すために開発された技術*を学びながら、その背景にある視座に触れる場を作る。 技術を習得するプロセスを通して、既存の枠組みをクリティカルに見つめてものごとの本質を捉える視点、観察に基づいて仮説をたて試すことを繰り返すあり方（探究）、ものごとの連鎖や複雑で多様な有り様を見ていく力、自分自身のニーズや考えをより解像度高く捉えことば

	で表現する力、目的を見極めたうえで交渉する力、対等性への感度などを身につけていく。 自分と周囲の問題を自分で解決できる技術を増やしていくことは、他者から搾取する構造から離れていくことや、既存の枠組みに捉われずに自分の望む生き方を選びとる自由を手に入れていくことにつながる。また、扱える技術が増えると、自分自身への信頼が強まり、自分で自分を承認する力、エンパワメントへとつながる。 さらに、技術を習得する過程で、学校で習う知識を、試験のために記憶するものとしてではなく、現実の暮らしや社会で活用されており、自分の生活や人生を助け、豊かにしてくれるリアリティを伴ったものとして学び直し、生涯役立つ知恵へと変換する。 *例えば、「その辺のもので生きる」オンライン講座で取り組んだドライトイレ「折り紙コヤッシー」の製作・運用の技術と仕組みは、次のような目的とデザインに基づいて開発されている。 【目的】 排泄物に含まれる窒素・リン酸・カリウムを個人が回収し、身近にある土へと還元する仕組みを作る。それによって、自然の循環をよくしていく。同時に、インフラへの過剰依存や、自身の排泄物の処理が他の地域に住む人々に環境被害等を引き起こす構造から脱していく。 【目的を達成するためのデザイン】 ・原材料費を 2ドル以下に抑え、多くの人が取り組めるようにする。 ・製作も修理も簡単にできる材料と形状にする。 ・清掃と滅菌が簡単に行える仕組みを考案する。 ・使用後の廃棄時に有害物質を発生させない材料を使う。 ・輸送のための石油資源の使用とコストを極力抑えられる材料、形状、運用方法を考案する。
2024 年度の実施内容	(1) 鹿児島県日置市を中心とした展開(対面) 日置市内の小中高校を中心に、おもに「その辺のもので生きる」オンライン講座で扱った内容を、各学校の授業のニーズに合わせた形にデザインし、出前講座として実施する。すでに、日置市立伊集院北中学校 2 年生全員を対象にした 2 回シリーズの授業が決定している。その他の学校との打ち合わせも今後進めていく予定である*。 また、日置市内の施設を使い、鹿児島県内・県外からも小中高校生や教育関係者などが参加できる講座やワークショップを実施する。 *「オープンソースのプラ再利用『プレシャスプラスティック』プロジェクト」、「算数・数学の辺・面・角度・図形の応用で資源の消費を最小限に抑えつつ最大限に大きく強い構造体を生み出せる形『ドーム』を作る」、「金属加工と鉄器時代に生きるヒト」など (2) 「その辺のもので生きる」オンライン講座の発展プロジェクト(対面およびオンライン) オンライン講座に参加した教員・中高生、あるいはオンライン講座のレポート等を読んで自主的に活動を始めている中高生などの要請に応じて、日置市以外での授業やワークショップ等を行う。基本的には対面を想定しているが、海外も含め遠隔地の参加者への対応が必要な場合はオンラインで実施する。 また、日置市での活動の成果を、ほかの地域の教育関係者や中高生にフィードバックできるような講演・講座の実施も検討する。
2024 年度のポイント	(1) 鹿児島県日置市とのネットワーク 2021 年から 3 年間オンラインで連続講座を実施してきて、講座で扱う技術や技術の背景にある視座を習得するには、継続性が重要な鍵となることを再認識した。 本講座の講師が鹿児島県日置市に拠点を置いていることもあって、日置市および同教育委員会、市内の学校、地域コミュニティとのネットワークが形成されつつある。2023 年度後半から、試験的に、小学校での授業や市主催の教育イベントでのワークショップ実施などの試みも開始している。日置市は 2023 年度より、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「日置市こどもまんなか宣言」を行なうなど、教育への関心は高い。 講師が拠点を置く場所で、行政とのネットワークも活かしながら、子どもたちの継続的な学びの場を作っていきたいと考えている。地元企業の支援についてもアプローチを試みていく。

	(2) オンライン講座の反響 オンライン講座終了後、講座に参加した教員やレポートを見て活動を始めた中高生などから、授業やワークショップを開催してほしいとの依頼が複数届いている。単発のイベントではなく、学校の授業との連携を前提とした依頼や、すでに自主的な活動を始めている中高生が具体的な課題を解決するためにワークショップを依頼してくるケースも増えている。このように、出前講座やワークショップで学んだ内容を参加者が自分たちの拠点で継続的に発展させていくことが見込まれる依頼に対し、講師を派遣することを検討する。
講師・ファシリテーターなど	講師(企画・広報協力を含む): テンダー氏(一般社団法人その辺のもので生きる代表理事)
対象者・人数	・日置市内の小中高校生(人数は、各校との打ち合わせによって決定) ・学校以外での講座・ワークショップ等 15～100 名(扱うテーマ、活動内容によって決定)
実施時期・回数	通年 ・授業 延べ 60 分×25 時限(年間に請け負う授業時間の延べ数として 25 時間程度を想定。実際には、各学校のニーズや扱うテーマによって授業 1 回あたりの時間数は変動する) ・学校以外での講座・ワークショップ等(鹿児島県外、オンラインも含む) 5 回
実施主体	■主催　□共催 □その他(　　)
参加費等	学校外で広く参加者を募る講座やワークショップ 1500 円程度(材料費によって変動)

(2) 聞き書きプロジェクト	予算	778,200 円

事業の目的	本プロジェクトでは、「聞き書き」の手法を用いて、自分と異なる意見や考えをとおして、自分と向き合い、自分の考えを明らかにし、新たな考えにたどりつくこと、さらに人に伝わる表現方法を考え探ることを目標とする。 「聞き書き」とは、インタビューする相手の生き方や考え方が浮かび上がるように聞きだし、それを相手のことばを使って原稿にまとめるものである。事前準備を十分にしたうえで、相手とじっくり向き合い、相手のことばを受け止め、自分で咀嚼し、原稿に構成し直す過程を伴う。 これまでに 1000 人以上の聞き書きを行い、聞き書きの名手である塩野米松氏を講師に招く。塩野氏は相手と信頼関係を築き、相手のことばを引き出していき原稿にまとめるが、納得して原稿にするまでに時には何年もかける。その過程からうまれてくることばは重く深い。情報がネットで氾濫している今日、どこかの情報ではなく、塩野氏のことばや姿勢に直接ふれ、さらに実際にインタビューする相手と向き合い、その人の語りに耳を傾け、原稿にまとめるという実体験はこれから生きていくうえで必要な学びであり、「対話」や「共創」の基礎となる。 この体験の場を、比較的さまざまな学びの機会に恵まれた大都市圏ではなく地方で展開していく。地方での多様な学びの機会のひとつとなり、その地域の課題やニーズに沿ったテーマ設定にすることで、地域のコミュニティに寄与することをめざす。
2024 年度の実施内容	(1) 日置市立図書館での講演・対談 日置市の図書館と連携し、「聞き書き」がどういうものか知ってもらうことを目的に、塩野氏の講演と、日置市在住の方との対談を実施する。 (2) 日置市の中学国語教員向け研修

	日置市および日置市近隣の中学校の国語教員を対象とした研修で、「聞き書き」をテーマとした講演・ミニワークショップを実施する。教員に「聞き書き」について理解を深めてもらうことで、その後の生徒への波及をめざす。
2024 年度のポイント	多様な学びの機会を、大都市圏だけでなく、地方でも提供していくことが公益に資することから、まずは「その辺のもので生きる」講座と同じ鹿児島で実施する。2024 年度は特に、塩野氏の講演をとおして「聞き書き」への理解を深めてもらうことを第一の目標とする。
講師・ファシリテーターなど	(1)講師:塩野米松氏、対談:塩野米松氏と日置市在住の方 (2)講師:塩野米松氏
対象・人数	(1)30 名程度　　(2)10～15 名
実施時期・回数	(1)5～7 月　　(2)7～8 月
実施主体	■主催　□共催　□その他(　　)
参加費等	なし

2. 地球講座 2024 「The LIVE」「The CORE」	予算	4,511,940 円
事業の目的	世界が抱える課題は複雑さを増しており、困難に直面している地域の人や関心の高い人だけで解決することができない。国や地域をこえて連帯するための「地球大の関係力」*が現代を生きる私たちに必要となっている。そこで、世界の青少年の「グローバル」に対する理解を国際から地球へと更新し、地球の目線を持って異なる他者とのつながりを体験する機会を提供する。体験を通じて、世界の青少年が地球全体を俯瞰しながら地球市民としての視座を育み、利他的に連帯・共生する地球大の関係力に意識的になり、この星に生きる存在のひとつとして、地球環境や他の生命体との関係を構築できるようになることをめざす。 *地球大の関係力:地球上の隣人(人類にかぎらない)と融通したり共有したり協力したりする関係性の力	
2024 年度の実施内容	・「The LIVE」(オンライン＆オフライン)―「地球の目線で世界を捉え、対等な関係を構築する」 東京の会場に訪れることができる日本の中高生 10 名程度の参加者を募集して実施する。まず、会場とオンライン(Zoom)を結ぶ形で、世界各都市のレポーターが各地から中継して、日の入りの様子や地域の今(咲いている花、みかける虫、季節のおまつり、空模様など)を報告する。つづいて専門家がデジタル地球儀「SPHERE」を活用して地球の出来事として解説しながら、地球の目線で世界をみる方法を伝える。最後に、参加者は地球の目線で世界をみて感じたことをグループに分かれて共有する。 ・「The CORE」(オンライン)―「探索的対話を通じて未来を共創する」 2023 年度同様、オンライン(Zoom、Slack)を会場に、日本、韓国、中国、マレーシア、オーストラリア等から数名ずつ計 15 名程度の参加者を募集して開催する。まず、それぞれ地球の目線で世界を見る活動からはじめ、つづいて異なる言語、文化、環境を背景とした参加者とグループを結成し、未来の地球について対話する。最終日には専門家の地球の目線に触れ、仲間と更なる対話を重ねて未来の地球を共創する。最後に対話の成果を「未来の地球―こんな地球にしてみたい」というテーマで発表する。	
2024 年度のポイント	地球規模で起きている環境の激変による様々な課題は、国や地域を越えてつながり、協力しなければ解決が難しい。そして、誰もが無関係でいることができない状況にあることは周知の	

	事実である。 しかし実際に地球を体感し、遠く離れた国や地域にいる人をこの惑星に共に在ると感じる機会は多くない。そのため、目に見える形で暮らしに影響がある地域で個別に向き合うことはあっても、全地球的に課題を共有して解決しようという行動や取り組みにつながりにくい。そこで、目的に掲げた「地球大の関係力」に気づく機会として、地球の目線でみたり考えたり、多様な他者と共有したりできるように本講座を企画している。 2023 年度のプログラムでは、地球の目線で世界を捉え、自分たちの心にある地球像をアップデートしながら同じ地平にたっていることを確認することができた。また、地球をテーマに参加者の視点の違いを並べて重ね対話することで、未来のためのアイデアを共創することができた。 しかし共創のための対話を限られた時間の中で行うには、オンラインはオフラインのコミュニケーションに及ばない。そこで、2024 年度前半のプログラムは、オンラインで地球を体感しながら、同時にオフラインで対話を深められるようなハイブリッドな形式でプログラムを展開する。2024 年度後半のプログラムでは、学びあいをさらに高めるような文脈を設定し、参加者間の関係性がより深まっていくことをめざす。
講師・ファシリテーターなど	竹村眞一氏（京都芸術大学教授／特定非営利活動法人 ELP 代表）
対象・人数	「The LIVE」　参加者 10 名 「The CORE」　参加者 15 名
実施時期・回数	「The LIVE」　6 月（1 回） 「The CORE」 11 月～12 月（3 回）
実施主体	■主催　□共催 ■その他（企画・制作：ELP）
参加費等	なし

3. アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動	予算	1,752,000 円
2024 年度の実施内容	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。	

イ．ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業

【予算額 1,219,500 円】

1. ときめき取材記ウェブサイトの運営		予算	849,500 円
事業の目的	「ときめき取材記プロジェクト」では、学生が興味のあるトピックを選び、それに関連する人にインタビューし、聞き書きの手法を用いてまとめた原稿をウェブサイトで発信する。学生はトピックをとおして社会を多面的に捉え、インタビュイーとじっくり向き合うことで、自分と異なる意見や考えを受け止め、自分の考えを見つめ直し、新たな考えにたどりつくこと、さらにウェブサイトに記事を掲載することで人に伝わる表現を探ることをねらいとしている。 ときめき取材記ウェブサイトに記事を掲載することを、ときめき取材記プロジェクトのゴールとすることで、プロジェクトでのインタビューが課題のためではなく発信のためのインタビューとなる。本ウェブサイトはプロジェクトにリアリティをもたせる役割を果たしている。またウェブサイトに掲載されている 130 本以上の記事が有益な資料として活用され、実践例が新たな参加教師に参照され、プロジェクトの実践者が増えることもウェブサイトではねらいとしている。2024 年度は同ウェブサイトの将来を見据えた運営を視野に入れ事業を行う。		
2024 年度の実施内容	2024 年度はときめき取材記ウェブサイトの運営を行いながら、2024 年度末までにウェブサイトの運営を、おもにときめきプロジェクトに取り組む教師が中心に構成する外部団体に移行する。TJF は外部団体の設立に協力するとともに、ウェブサイトの運営がスムーズにいくようウェブサイトの構築などのサポートを行う。		
2024 年度のポイント	ときめき取材記プロジェクトが継続発展できるよう、外部団体にウェブサイトの運営を委譲する。ウェブサイトの移行がスムーズにいくようサポートする。		
実施主体	■主催　□共催 □その他（　　）		
参加費等	なし		

2. イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	370,000 円
2024 年度の実施内容	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		

ウ. 多様な言語や文化の背景をもつ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

【予算額 8,830,000 円】

1. 多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿（PCAMP）」 （1）ひろしま PCAMP2024、（2）とやま PCAMP2024	予算	8,350,000 円
事業の目的	多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」（PCAMP）は、多様なことばと文化につながりや興味・関心を持つ中高校生及び中高校生と同年齢の青少年を対象に実施している合宿型交流プログラムである。「一人ひとりの個性を尊重し、多様性に富み、創造性を育む社会環境の醸成」を目的とし、「多文化×芸術」をコンセプトに、「参加者が芸術表現活動を通して自他理解を深め、参加者間の多様性と内なる多様性に気づき、受け入れ、尊重しあい、協力・協働・共創のマインドが育つよう、次のことに重点をおいてプログラムを組んでいる。 ①ことばと身体で自分のアイデンティティを表現する。 ②多様な参加者と創造性を刺激しあい、自他理解を深める。 ③さまざまなバックグラウンドの違いを越えて対話し、協力・協働・共創を体験する。 また、地域版 PCAMP では、①地域の多文化共生を担う次世代リーダーを育成すること、②地域において芸術文化に取り組む関係者と多文化共生に取り組む関係者、及び地域住民との協力・協働・共創も促し、地域づくりに貢献すること、③現地調達、現地消費により地域経済の活性化につなげること、などもめざしている。	
2024 年度の実施内容	（1）ひろしま PCAMP2024 PCAMP の地域版は広島県からスタートし、2022 年度は安芸高田市、2023 年度は呉市で開催した。3年度目となる 2024 年度は福山市で開催する。これまでの経験、知見を活かし、演出家、俳優、振付家、ダンサーなどがファシリテーターとして伴走しながら、以下の活動を行う。 ①参加者が互いを知り、コミュニケーションを図り、仲良くなるためのさまざまなシアターゲーム ②参加者一人ひとりの経験や感性、アイデンティティを表現するための演劇ワークやダンス＆身体表現ワーク ③参加者どうしが関わりあい、対話し、協力しながら、演劇・ダンス・身体表現を組み合わせたパフォーマンス作品を創作し発表 （2）とやま PCAMP2024 「ひろしま PCAMP」の実績が評価され、公益財団法人富山市民文化事業団から、同事業団が運営管理している富山市文化芸術ホール（オーバード・ホール）及び富山市の自主事業として TJF と共同主催したいという依頼があった。PCAMP を多地域で展開することをめざし、広島県につづく2地域目として富山県でも開催する。プログラムは「ひろしま PCAMP」の構成と内容をベースとし、富山県の地域のニーズと多文化事情に合わせて調整を行う。	
2024 年度のポイント	（1）ひろしま PCAMP2024 のポイント 広島県公式ホームページに掲載されている在留外国人数（2019年）の内訳によると、福山市の在留外国人数（約 1 万人）は広島市（約 2 万人）に次いで多く、3 番目に多い東広島市（約 8 千人）、4 番目の呉市（約 3500 人）、5 番目の尾道市（約 3200 人）からのアクセスもよい。各種芸術や国際交流の大型イベントが集中しがちな広島市よりも、ニーズ、立地、都市規模などから総合的に判断し、福山市を 2024 年度の PCAMP 開催地と定めた。 また、広島県での開催が 3 年目となることから、今後福山市が広島県ないし中国・四国地方を参加募集対象地域とした PCAMP の開催拠点となり得るか検証する。広島県近隣の岡山県、島根県、山口県及び四国各地で積極的に多文化共生に取り組んでいる団体にも参加者募集に協力していただけるように情報を共有していく。また、これまでの巡回開催により形成された広島県各地のネットワークをさらに広げ、広報と運営に生かしていく。	

	(2)とやま PCAMP2024 のポイント 芸術文化ホールを運営管理している公益財団法人富山市民文化事業団が、これまで多文化共生事業の必要性を認識しながら単独ではまだ実現できず、アウトリーチ先を探していたところに、TJF の PCAMP を知り、共同主催を申し出たという経緯がある。そして、事業団が PCAMP を自主事業と位置付けたことで、会場の安定的な確保と無償での使用、現地運営費の分担のほか、本番運営の主体を事業団側に担ってもらうことが可能になる。地域主体の PCAMP 運営は地域版の最終目標であるため、今後の新たな地域化モデルになり得ると考える。 ＜関連プログラム＞ ・PCAMP ウェブとパンフレットの改訂（下半期を中心に） PCAMP ウェブとパンフレットを改訂し、中高校生対象のPCAMPを地域で展開していくことのみならず、PCAMP から派生したプログラム（「多文化×芸術」をコンセプトとした教職員向け演劇教育WS、ティーチングアーティスト（TA）の育成WS、PCAMP の理解者を増やすための市民向け体験WSなど）への広がりについても、その趣旨、目的、内容などの情報を整理して伝えていく。特にウェブサイトでは、各地域で多文化共生に取り組む諸団体がなぜ PCAMP に共感し協力しているのか、その思いや日頃の活動情報（各ウェブや SNS へ誘導）を含めて紹介していく。
講師・ファシリテーターなど	【メインファシリテーター（2 会場共通）】 柏木俊彦氏（演出家、俳優） 田畑真希氏（振付家、ダンサー） 森永明日夏氏（俳優、ティーチングアーティスト） 【サブファシリテーター】 (1)ひろしま PCAMP2024 広島県内在住アーティスト 2 名 (2)とやま PCAMP2024 富山県内在住アーティスト 2 名
対象・人数	(1)ひろしま PCAMP2024 ・ 中高校生相当の年齢（14～19 歳）で、広島県（もしくは近隣県）在住の青少年 30 名（海外にルーツをもつ青少年を含む） ・ 過去の「ひろしま PCAMP」参加者よりサポーター5 名を同時募集 (2)とやま PCAMP2024 ・ 中高校生相当の年齢（14～19 歳）で、富山県（もしくは近隣県）在住の青少年 30 名（海外にルーツをもつ青少年を含む）
実施時期・回数	(1)ひろしま PCAMP2024 8月8日（木）～11 日（日） ※運営チームは前日会場入り (2)とやま PCAMP2024 8月 19 日（月）～22 日（木） ※運営チームは前日会場入り
実施主体	(1)ひろしま PCAMP2024 ・主催：TJF ・後援（申請中）：広島県教育員会、福山市 ・協力（申請予定）：広島県各地の NPO、市民団体 (2)とやま PCAMP2024 ・主催：TJF、公益財団法人富山市民文化事業団、富山市 ・共催：北日本新聞社（予定） ・後援（申請予定）：富山県教育員会

	・協力（申請予定）：富山県各地の NPO、市民団体
助成金・参加費等	・広島会場では食費の一部として参加費5千円を徴収。 ・富山会場の参加費はオーバード・ホール予算に計上 ・公益財団法人三菱 UFJ 国際財団に対し、「とやま PCAMP2024」のファシリテーター謝金の一部として 50 万円の助成金を申請中。 ・富山市民文化事業団は現地運営費 150 万円相当を負担

2. ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動	予算	480,000 円
2024 年度の実施内容	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。	

エ．広報事業

【予算額 6,643,331 円】

1. 財団事業等の発信		予算	4,250,709 円
事業の目的	TJF の活動趣旨および各事業についての情報が対象とする層に届くよう、情報発信と環境整備を行う。		
2024 年度の実施内容	・TJF の活動趣旨と各事業について、ウェブサイト、メルマガ、SNS 等を通じた情報発信を継続する。 ・ウェブサイトの利便性の向上をめざし、環境整備を行う。また制作年度の古いウェブサイト・ページやデータ、機能の整理を行う。		
2024 年度のポイント	・現在の TJF のメインのウェブサイトは 2019 年に WordPress を使用して構築したものだが、それ以前に別のアプリケーションを使って制作したウェブサイト・ページが複数存在する。そのなかには、すでに最新のコンピュータやアプリケーションの環境に対応できなくなっているものもある。2024 年度中に古いページ、データを精査し、情報が古くなっているもの、今後利用される可能性が低いものを削除する。 ・TJF のウェブサイトは、日英韓中露の 5 言語で運営しているが、多言語ページを構築するための機能がウェブサイト制作アプリケーション（WordPress）のアップグレードの障壁（バグを引き起こす）となり、ウェブの制作環境を最新に保てない状況が発生している。一方、多言語間の機械翻訳ツールの性能は、生成 AI の出現もあって飛躍的に向上してきており、無料で利用できるものも多い。今後はユーザー側が自身の必要な言語に翻訳することを前提に考え、TJF が多言語ページを新たに制作・提供することは行わない。トップページに掲載予定のビジョン・ミッションなど、必要に応じて、同一ページ内に日本語と英語を併記する等の対応を行う。		

2. デジタル媒体を使った広報のサポート		予算	2,112,622 円
2024 年度の実施内容	デジタル媒体を使用した情報発信や事業運営が円滑に行われるよう、IT 機器管理や各種アプリケーションの利用など環境整備やテクニカル面でのサポートを行う。		

3. エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	280,000 円
2024 年度の実施内容	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		

オ．助成事業

【予算額 335,030 円】

1. 公募助成金プログラム		予算	335,030 円
2024 年度の実施内容	2004 年中に公募が始められるよう、審査委員会会合を 2 回開催し、公募助成事業の骨格と審査の体制を固める。		